

令和8年度 佐賀県小中学校校長会活動方針

近年、想定できない国家間・地域間の戦争・紛争の勃発、環境問題や自然災害の発生など、先行き不透明な「予測困難な時代」となっている。また、私たちの身の回りでは、生成 AI の社会への急速な浸透や、IoT (Internet of Things) 等の先端技術が高度化することで社会の在り方が大きく変化する、「Society5.0 時代」の到来が現実的なものとなりつつある。

このような社会情勢の中、中央教育審議会答申や次期学習指導要領を見据えた議論の中では、急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力として、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」とされている。

そこで、これからの学校は、校長の明確なビジョンと確かなリーダーシップのもと、従来の日本型学校教育を発展させ、すべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の推進を図り、「令和の日本型学校教育」を実現させていく必要がある。

また、佐賀県教育委員会は、第4期教育振興基本計画、佐賀県教育大綱 Vol.3 及び教育施策実施計画を基に、佐賀県の教育の方向性を示している。「ほめるから、はじめる。はじまる。」を合言葉に、子どもたちが自分で考え、判断し、行動できる、また、夢に向かって自分らしく伸び伸びと挑戦していけるよう、子どもの主体的な考えを尊重し、応援し、「自分で自分のことを決められる子ども」の育成を目指している。

そこで、私たち佐賀県小中学校校長会は、県内小中学校の校長をつなぎ、社会や教育が抱える課題、これから求められる教育の在り方について、情報の共有と理解の深化を行い、教育施策の円滑かつ有効な実施に向けた取組を推進していく必要がある。また、佐賀県教育委員会と連携を強化し、教育行政の一翼を担う役割を積極的に果たしていくことが求められる。さらに、教育課題解決のため組織的な調査研究を行うとともに、校長会として主体的に取組を進めていくことが求められる。

一方、本県は教員の大量採用期にありながらも教員不足の状況にある。これからの教育を創造し、教育水準の維持・向上を図るためには、教員の資質・能力を高めることが前提となる。私たち校長が教育という職のすばらしさや尊さを語るとともに、働き方改革の推進、若手教員やミドルリーダーの育成、及び、教職員人事評価制度や研修履歴を有効に活用した職務遂行能力の向上など、教職員の資質・能力の向上を促す取組が必要である。

また、変化が激しい時代であるからこそ、校長会として常に活動の検証・改善と、組織の機能強化を行い、喫緊の教育課題の解決、及びこれから目指すべき教育の在り方について、信念をもち、積極的かつ柔軟に取組を進める。

以上のことを深く認識するとともに自らの使命と責任を自覚し、互いの尊重と協働のもと、しなやかさを持ち、高きに和す、存在感のある組織として着実に歩みを進めていく。

以上の観点から、次の項目を活動の重点とする。

- 1 教育施策の円滑かつ有効な実施に向けた取組
- 2 教育行政の一翼を担うべく教育委員会との連携強化の取組
- 3 教育課題解決のための組織的な調査研究と主体的な取組
- 4 教職員の資質・能力の向上を促す取組
- 5 校長会組織の機能強化及び充実に向けた取組